

共通教育通信

KYOTO UNIVERSITY

2007 Autumn

contents

- | | |
|--------|---|
| 巻頭言 | もう、2年！ まだ、2年？ |
| 授業紹介 | 神話学
宇宙科学入門
英語Ⅱ（テストテイキングクラス）
スポーツ実習Ⅰ（ウォーキング） |
| レポート | 2回生進級時アンケートの結果について |
| 研究施設紹介 | 人文科学研究所 |
| お知らせ | OPEN! サークル掲示板
KULASIS（学部版）が工学部でスタートします
吉田南構内の施設について |
| コラム | 研究者の宇宙 |



Vol.9

もう、2年！ まだ、2年？

人間・環境学研究科長

堀 智孝

自宅の周りに蔬菜を栽培するプロとアマが混在している。蔬菜の栽培に限らず、プロとアマの存在は、スポーツや料理さらには囲碁や研究に至るまで、人間の営為がおよぶすべての分野で知られている。泥棒にもプロとアマが居るらしく、なるほどと感心させられる盗人技が現れる。しかし、同じ二つの分野でプロとアマが距離を短くして入り混じっている、おもしろいことが起こる。

プロとアマの間には、高くて丈夫な壁がある。アマはどんなに研鑽を積んでも、たとえ苦節に耐えても、プロにはなれないのである。しかし、プロにはプロの辛いところ寂しいところがあつて、いったんプロに育つとアマには戻れない。例を挙げるまでもないが、プロの蔬菜生産者は、アマが営む家庭菜園をうらやましく眺めるだけであるし、プロの棋士はアマのようにゲームを楽しめないのである。アマの上り詰めたところにプロが居るのではないし、プロの不出来なのがアマのトップでもない。両者の営為は外目に

同じであつても、プロとアマは互いに異質な存在である。ただ、人として楽しく思えるのは、人間の営為がおよぶ範囲が無限であること、しかも、人は、プロとなる分野とアマとして楽しむ分野を独立に選ぶことができることである。そしてこの私は、(不出来ではあるが)教員としてのプロ、蔬菜生産のアマである。芭蕉が門人に教えたという一言「実に居て虚に遊ぶ」虚に居て実を行うべからず」を戒めにして、筋違いのプロとアマを一身の裡に同居させている。

地球規模での気候変動が心配である。暑すぎる夏、寒すぎる冬など、多少は抵抗し、また、我慢してやり過ごすことはできるが、早過ぎる夏、乾いた雨期などは、蔬菜生産への影響と全く同じ原理で、世界の食糧危機につながるのである。しかし、今ひととき許しを乞うて、不埒な議論を続けてみたい。

プロの蔬菜生産者は、暦(カレンダー)を大事にしている。彼らは、たとえ春の到来が遅れていても種まきの時期を逃

さない。他方アマは、早春の余寒に脅しを掛けられると、播種をためらうのである。この数日の遅れは、蔬菜生長の遅れにとどまらず、収量と品質におよぶのである。

さて、不思議に思うのは、太陽暦がなかった頃、つまり、一年が365・242日であると知らなかった頃、当時の耕作のプロは何をもつて、穀物の播種期を判断したのだろうか。北緯35度01分に枯れ木が在って、その枯れ木が天頂から南に向かつて、たまたま35度01分だけ傾いていたとすると、一年に一回春分の日、太陽が南中する時刻に限って、枯れ木の太い幹の影がすっかり地面から消えることになるが、たまたま、それに気づいたプロがそこに居たのだろうか。この二つのたまたまが、同時に結びつく確率は零に近いだろう。ある同僚は、もう少し現実味のある出来事として、シリウスと言う星の名を耳打ちしてくれた。つまり、全天随一、マイナス15等の輝度を誇る星が、一年に一回だけ、そして、

必ず一回、住居のある定まった位置から見えるのである。春先のあさまだき、寝所の天井を何気なく眺めていて、件のその位置で天井の小さな隙間を通して見事な輝きをする星が目に入る。この時をまさにその時と定めて種をまく。プロの感覚であろう。

「星の数ほど」と言う表現は、極めて多数という修飾句であるが、この表現は、多数というよりはむしろ無価値である、どこにでもある、注目に値しない、などといった負の意味を含んでいる。一生を掛けても解決しないような無数の、星の数ほどもある研究対象と研究目的は、固有の方法と独自の視点の下で、限りある数の研究へと絞られていく。この絞り込みの技に目を向け、耳を傾け、心を動かし、この先をどう想い描くのか、教員と学生に共通の楽しみである。

化学が研究する分子は、星の数ほど存在する。原子はたかだか百余種であるが、原子はその数と種類を違えて結合して構造をつく

るから、分子の数の全体は、星の数ほどになる。星数を超すかもしれない。化学の授業では、この数なんとかなりませんかと学生に迫られる。詳細は職業上の秘密として、私は、一つの分子と三つの化学反応式だけに意識を集中させている。数を絞る込む方が、却って化学の全体がよく見えるのである。

5年前、自分の意識の中に1個の新分子が現れた。これにも集中するのか、はたまた、これを無視するのか、いまも悩んでいる。この分子は、物理的な手法で観測した場合(X線構造解析)と化学的な手法で解析した場合(元素分析)とで、異なる姿を見せるのである。三次的元的なだまし絵なら無視しても構わないが、科学の本質に繋がっている可能性もある。時間を掛けて真の解答を得たいのである。某国の同業者は功を焦ったのか、論文の中でこの分子の矛盾に類被りをしている。先日、ため息混じりにこの話を職場の同僚に打ち明けた、これを考えて、もう、2年！経ったと。聞き手の同僚はすぐさま、まだ、2年？」と返してきた。

かつて、おもしろい話を耳にした。文豪バルザックが、自分の作品の売れ行きを出版社に尋ねる手紙に、只の「文字」？」と認めた。問いを受けた出版社は、絶好調と返す代わりに只の「文字「！」



堀 智孝 (ほり としかか)
人間・環境学研究科教授
1946年生 滋賀県大津市出身
専門分野：分析化学
趣味：山芋(緊急食糧)の栽培

と書き送ったのである。互に交換された一文字が、もちろんウィットであることはわかるが、この「文字」こそが受け手の想像力をかき立てて、無限に広くて深い意味合いを醸してくる。

昨今、研究課題の表記が長くなる傾向にある。私が卒業した研究室のお師匠様とその先代のお師匠様は、十余文字から十数文字で研究課題を示された。もはや抽象の世界であつたが、その分、想像力がかき立てられた。自由の学風は、このような短い表現に込められていたのかもしれない。ちなみに、不肖の末弟子が昨今、具体の世界で描く研究課題の字数は、短くても40字に近い。たぶん、17字から31字が基礎研究に相応うのであろう。有限と無限、！と？、具体と抽象との境界は、教育プロの一人として、いつでも自由に、しかも気楽に、行き来したいものである。



神話学

岩田文昭

映画スター・ウォーズは、現代の神話です。

- 1 青年ルークが救助を求めるレイア姫の映像を見て、宇宙への冒険の幕があく。
- 2 ジェダイの騎士オビ・ワーンがルークと一緒に宇宙へといくよう誘うが、ルークは収穫の手伝いがあるといって、いったんその誘いをことわる。
- 3 だが、家族が殺害されたことで旅立ちを決意し、超越的な力を持つオビ・ワーンの助けを受ける。
- 4 故郷を発つときに敵の攻撃を受け、命からがら宇宙へと飛び立つ。

こういったストーリーは世界各地の英雄神話に共通するものです。それもそのはずです。映画の原作者ジョージ・ルーカスは、アメリカの神話学者キャンベルの著作から神話を学び、それに示唆をうけ、映画の原作を作成させたからです。先のストーリーは、キャンベルの用語でこう表現されます。

- 1 冒険の召命
- 2 召命の拒否
- 3 超自然的なものの援助
- 4 最初の境界の越境

さらにまた、主人公が困ったときに助言をする、心の広さと知恵を備えた「老賢者」と



してヨーダが登場し、悪の化身である「影なる父」としてヴェイター卿が描かれています。これらは多くの神話に共通して現われる神話的イメージです。

ここで注目したいのは、スター・ウォーズでは、神話学の成果が商業作品となり、それが全世界の多くの人たちに同時に共有されていることです。ここからさまざまな問題を考えることができます。なぜ現代人は神話的表象を欲するのか。神話が消費社会に取り込まれることには、どのような問題があるのか。地域・民族を越えて、同一の神話的表象が伝わるという点から、どのような社会構造の変化が読み取れるのか、などといった問いです。

ます。

【或る学生の声】

成績はレポート評価。ただし、レポートはしんどいです。○年前期は、「授業中に紹介した思想家の本を要約した上で：」というものでした。他人の著作に頼るといって点がとれない。

【岩田のコメント】

もっともです。レポートに関しては、他人の要約本を無断で書き写したり、ネット上からコピペすることには厳しく対処しています。私の授業を受身に聞くだけで満足せず、また安易な解説本にとどまらず、最初は邦訳でかまいませんから、一流の思想家の書籍に取り組んで、人類の大きな問題に対して、ぜひ自分自身の頭で考えてみてください。そのきっかけを私の授業が与えることになれば、私にとつてそれはなによりの慶びです。

在に焦点をあわせているからです。いうならば、神話という観点からの人間存在の探究が本授業のテーマなのです。

本授業では神話という事象に重要性を認めますが、それを全面的に肯定するわけでも、また神話を欲する人間存在のあり方を素朴に是認するわけでもありません。神話が現実認識から人間の目を背けさせるような点にも考察をめぐらします。この場合には、神話を求める人間のある様相を批判的に分析することになります。それと同時に、神話が人類に普遍的に存在し、現在も神話や神話的表象を求めている意義もあわせて考えるのです。

前期の授業では、まず、古代ギリシアにおける神話の捉え方をいくつか紹介します。学問の発祥の地の捉え方は、その後の神話理解のモデルとなるからです。その後、十九世紀から現在にかけての何人かの思想家の神話に対する考え方を論じます。思想家の説を説明しながら、神話の肯定的側面と否定的側面を考察し、「人間」探求を深めていくのが目的です。本年度、取り上げた思想家は、ニーチェ、フロイト、ベルクソン、レヴィ・ストロース、エリアーデ、リクールなどです。かれらの主張は、様々ありませんし、またいずれの思想家の理論も、そんなに簡単ではありません。しかしながら、かれらが神話に取り組んだ姿勢の中には、さまざまな論点があるといえ、近代の人間像を捉え直そうとする貴重な思索を認めることができます。そのような思索の面白さを、授業ではできるだけ平明に伝えることができよう努力しています。

後期の授業では特定の思想家ではなく、現代における神話的表象の人間存在における意味を考察します。現代では、神話的表象が過去とは違った特異な形で存在します。スター・ウォーズや宮崎駿などの映画作品はその典型ですが、それだけではありません。心の癒しや心理療法も神話と深い関係があります。また、制度的な宗教に嫌悪感をいだく思想家が神話的表象を積極的に自身の思想に取り込み、それが多くの読者に受け入れられていることもあります。これらの事象の存在を念頭におきながら、神話の現代における意味をさまざまな観点から考察するのが後期の授業です。

【或る学生の声】

神話という言葉にちよつとだまされました。内容は高度の倫理です。ただ好きな人は好きなのはす。

【岩田のコメント】

けつしてだましてはいないはずですが：。シラバスにも講義の冒頭でも、授業の趣旨は明確に述べています。たしかに、高度かどうかは別にして、指摘の通り神話という観点から、ある種の人間学を構築しようという授業をしているので、「倫理」といってもいいかもしれません。特定の時代・地域の神話を深く勉強したい人には少し物足りないかも知れませんが、面白いと感じる学生が一人でも増えるように授業をしていきたいと思



岩田文昭 (いわた ふみあき)
高等教育研究開発推進機構非常勤講師
大阪教育大学社会科教育講座教授
1958年生 名古屋市出身
専門：宗教学・死生学・フランス哲学

宇宙科学入門

柴田一成

本講義は、以前は非常勤講師の先生の担当となっていたが、2007年度より新たに理学研究科宇宙物理学教室と同附属天文台の教員がリレー形式で行うこととなった。日本の天文学、宇宙科学の重要な一翼を担っている京大宇宙天文のグループが、この講義を担当することにより、現代天文学のほぼすべての分野をカバーする講義を提供する。文系向けの講義となつているが、理系の学生諸君が聞いても大変興味深い講義のはずである。本リレー講義によつて学生諸君は、京大ならではの、世界最先端の天文学の話が聞けることになるので、ぜひこの機会を活用してほしい。主な内容は以下の通りである。

イントロ 太陽系から宇宙へ

〈柴田 成・附属天文台(花山)教授〉
リレー講義の第1回として、宇宙科学とは何か、太陽系の惑星から宇宙全体までの構造や進化を概観し、近年の天文観測が明らかにした天体の驚くべき激しい活動性、爆発やジェットだらけの宇宙について述べる。最後に、宇宙人はいるか、地球外生命は見つかったか、太陽系外惑星探索はどうなっているのかなど、現代宇宙科学の最先端を紹介し、われわれは何故ここにいるのかについて考察する。

太陽の謎

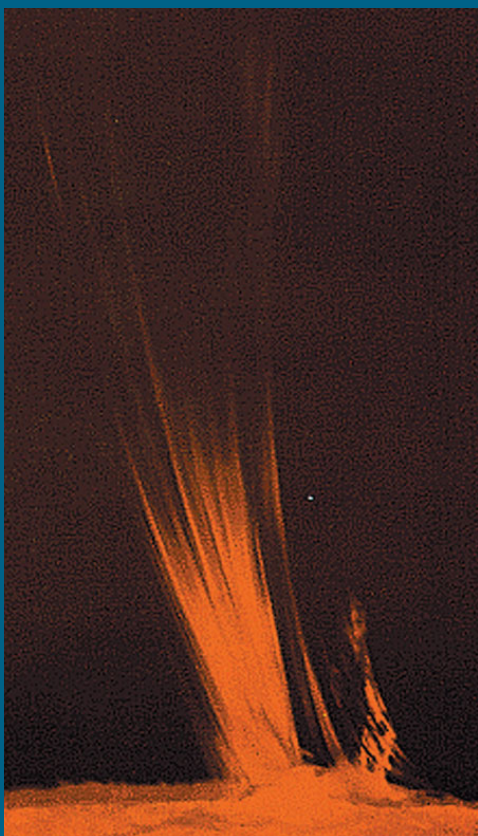
〈北井礼三郎・附属天文台(飛騨 准教授〉
太陽はその表面の様子をつぶさに見ることができる唯一の恒星である。粒状斑などの色々な大きさのガスの流れが起きている。また、黒点周辺には強い磁場があり、磁場とガスの流れの相互作用からフレア爆発という激しい現象も起きている。太陽コロナではガスが200万度の高温に熱せられており、太陽風となつて吹き出している。太陽表面での活動現象の影響は、直接あるいは太陽風に乗って地球にも

銀河系とその中心

〈長田哲也・宇宙物理学教室 教授〉
私たちの属する銀河系とはどんな大きさで、どんな形をしていて、私たちの太陽系はそのどこにあるのか、そして銀河系の中心はどうなっているのかを講義する。単に宇宙の姿を話すだけでなく、星・太陽・月・惑星の見かけの運動から、地動説が年周視差の測定によつて19世紀半ばにやつと確立した歴史など、いかに私たちが現代の宇宙観を手に入れたきたか、観測技術の進歩にも力点を置く。

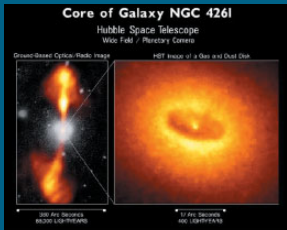
銀河とその進化

〈太田耕司・宇宙物理学教室 准教授〉
銀河とは宇宙に点在する、1000億もの



太陽表面のジェット現象

© 京大飛騨天文台



活動銀河核ジェットの根元に降着円盤!

© NASA

太陽活動と地球

〈上野悟・附属天文台(飛騨 助教〉
副題を「宇宙天気入門」と掲げ、この十数年の間に急速に発展普及をし始めている「宇宙天気」、「太陽地球間環境」という概念を取扱う。宇宙天気とは地球環境や地球上のテクノロジーに対し影響を与えうる、宇宙空間環境の事を意味するが、この講義では主にその構造と、それに影響を与えうる太陽活動や宇宙線の諸相、その変動の結果としての宇宙気象現象や実害についての具体例を、身近な例も取り入れながら紹介する。

恒星とその進化

〈野上大作・附属天文台(飛騨 助教〉
前回までで詳しい講義のあった太陽と、これからの恒星や銀河に関する内容を結びつけることを主目的に講義を行う。まず太陽は一番地球に近い恒星であることを述べ、そこから太陽系、恒星、銀河系、銀河宇宙全体と話を広

銀河の活動性

〈菅井肇・宇宙物理学教室 助教〉
数多くの奇妙な形をした銀河が、銀河衝突によつて生じることがシミュレーションで示され、銀河進化における衝突の重要性が認識されるようになった。銀河規模で分布していた星間ガスが中心領域に落ち込むことにより、爆発的な星形成や超巨大ブラックホールの活動が始まる。これらは銀河風を伴い、その後の活動性自体にも影響を与える。宇宙が小さかった昔に遡ると、銀河衝突や活動性がさらに激し



原始星円盤と爆発、ジェット

© NASA

変光星と突発天体

〈加藤太一・宇宙物理学教室 助教〉
まず、連星系と星の進化、食変光星と脈動変光星の違いとそのしくみを述べる。次に、新星と超新星の違いについて解説し、新星が星の若返り(生き返り)であること、新星爆発はくりかえすこと、矮新星は重力エネルギーで光ることを述べる。激変星やブラックホール連星の爆発現象、ガンマ線バーストなどの突発天体観測に関する京大望遠鏡の活躍や国際協力についても述べる。

ブラックホール

〈上田佳宏・宇宙物理学教室 准教授〉
ブラックホールとは一般相対論の予言する、強い重力により表面から光さえも逃れられない天体である。現代天文学はブラックホールが決してSFにおける想像物でなく、現実存在する天体であることを明らかにしてきた。銀河の中心には太陽の100万倍から10億倍の質量をもつ巨大ブラックホールが存在する。これらは銀河形成とも密接に関わり、宇宙進化において本質的な役割を果たしていることが、最近の研究で分かってきた。

暗黒星雲と星間物質

〈富田良雄・宇宙物理学教室 助教〉
第7回目の「暗黒星雲と星間物質」では、シリーズ講義の中で一番小さな宇宙の埃・塵・芥を主役に設定して話をする。いきなり星間塵からはいっても理解しにくいので、地球大気が

かった時代があった。

ビッグバンと宇宙の進化

〈谷合友則・宇宙物理学教室 准教授〉
宇宙はおおよそ140億年前に高温の火の玉として誕生し、現在も膨張を続けている。このビッグバン宇宙論は様々な観測事実を整合的に説明し、大きな成功を収めているが、一方で最新の観測データから「暗黒物質」や「暗黒エネルギー」と言った新たな謎も生まれている。この講義では、ビッグバン宇宙論を支える理論・観測的基盤を解説し、現在到達している宇宙像、宇宙史を概観した上で、現時点の問題点とその解決に挑む最新のプロジェクトを紹介する。

大宇宙への挑戦

〈宮室史英・宇宙物理学教室 准教授〉
宇宙の観測の歴史は、望遠鏡の発達の歴史でもある。過去100年間の近代望遠鏡の歴史を紹介し、観測限界をどのように広げてきたかを技術的な面から解説する。更に、今後予定されている巨大望遠鏡計画と、そこで用いられる技術についても紹介する。



柴田一成 (しばた かずなり)
理学研究科附属天文台 台長 教授
1954年生 大阪出身 京大理学部卒
専門：太陽宇宙プラズマ物理学
宇宙最大の謎を解明したい、というのが若い頃からの夢。最近、それは自分自身かも知れないと思っている。

英語Ⅱ

テストテイキングクラス

■京大にTOEFL®クラス

ロンドン大学言語学・音声学科の講義風景、今は懐かしい。古びた巨大なマイク、教授の顔は隠れて見えない。大理石の壁に、囁れ声だけが強烈な雑音とともに反響する。こだまのように幾重にもエコーしては割れ、また響き渡る。授業の最後には、「今日の講義内容を復習し、来週までに指定文献を熟読して、レポートを作成すること。ゼミでの発表の準備もしっかりとしないさい。」分厚い必読書を5冊と論文15本が指示される。1週間に授業を5コマ受講すると、読むべき文献は100近くになる。受講者全員に行き渡るように、貸し出し期限は二晩のみ。図書館へ我先に走り、予約し、大切に抱えて持ち帰る。大学院ではそれらの量がさらに増え、紙の鎧で武装してゼミの負け戦が果てしなく続く。寝食を忘れ、寸暇を惜しんで勉学に励む。これが欧米の大学・大学院の姿である。

日常会話にも不自由する。年齢、階級、出身地、十人十色の理解不能な英語が渦を巻く。食堂では、大音響のロックの洪水と Fish and Chips のどす黒い油の臭い。食欲はうせ、ひとり孤立していく。慣れ親しんだ聞き取りやすい模範英語は、日本の教室にしか存在しないことに気がつく。口がきけない、聞こえない。黙して語らず、いや、語れない。専門分野の授業を受けるところか、基礎力すらないとレッ

素材を基にして書く、話す、読解したうえで聴解素材を基にして書く、話す、といった統合技能が測られている。文法偏重が見直され、外国語技能としては極めて高度で実用的なものが要求されるようになった。

京大生が英語を学習する上で直面する大きな問題は、脳内に蓄積された百科事典的知識と、外国語能力との不均衡にある。彼らは、受験勉強を通して、既に高度な英語力を身に付けているはずである。特に、構文・構造を分析的に理解し、母語の助けを借りて、複雑な長文も正確に解釈できる。この力を、受験技術や知識として終わらせてしまうのでは納得できないだろう。授業では、TOEFL®の教材を使用しながら、蓄積された知識を活用し、推論能力に支えられた外国語運用能力の育成、自由かつ容易に使うことのできる母語のレベルに近い語彙力・表現力の定着、訳読に頼らない英語の理解及び産出能力の獲得を目指す。

具体的には、専門課程の準備教育を軸として、総合的に4技能を指導する。読解・作文技能は、学生が既に修得しているテクニックを、自らのニーズに合った自然な運用へと応用する。各専門領域の多種多様な概論書を断片的に用いて、専門語彙及び論文のパターンを体得させていく。聴解及び発話の基礎は、CALLプログラムにより発音・イントネーションを理論的・実践的に学習させ、音声処理・発信能力を強化する。その上で、聴解技能は、仮想キャンパスでの会話と概論講義の理解、発話技能は、自由発話・仮想キャンパスでの会話や概論講義の理解に基づいた発話を体系的に学習していく。統合技能は、読解及び聴解素材を適確に把握し理解した上で要約し、自

中森誉之



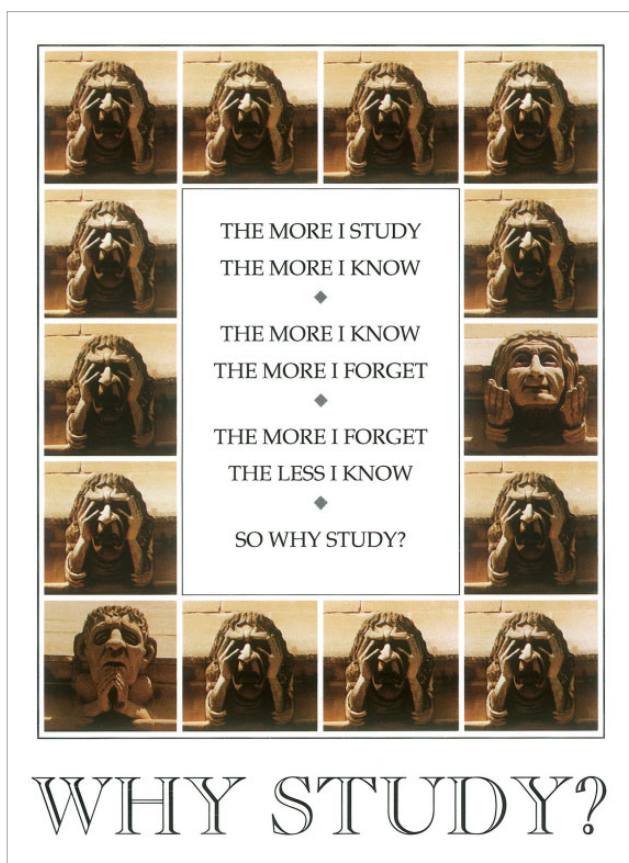
中森誉之 (なかもり たかゆき)
人間・環境学研究科准教授
横浜市出身

テルを貼られ、初級英語学習者に脱落する。待ち受けるのは、語学学校への入学手続である。日本一難解な受験英語を突破し、希望に満ち溢れ、自信をもつて留学した彼らの前に突きつけられた現実である。さらに、ある日突然、問答無用、ひとりまたひとりと仲間が去っていく。自尊心を打ち砕かれ、失意のうちに帰国したエリートたちを何人も見えた。

由である。

■授業にTOEFL®

海外の大学・大学院留学に必須とされている英語検定試験TOEFL®は、学問の世界に必要とされる英語運用能力を測る国際基準である。2006年度より試験の傾向は大きく変わった。従来の、聴解、構文・語法、読解とした領域が改定され、読解、作文、聴解、発話の4技能が出題されている。さらに、読解



「THE MORE I STUDY」©Chris Donaghue

身の考えを文章または口頭で表出する。いずれも技能に関する講義と、特定分野に偏らない練習問題を数多く解いていく。高速処理を促し制限時間内に解答する演習を行っている。単なる表面的なTOEFL®対策技術に留まらず、海外の大学・大学院で勉強し、学術場面に対応できる基礎的な英語力の育成を目的としている。この授業では、TOEFL®受験希望者や意欲のある学生を歓迎しており、上回生や大学院生も多数参加している。

■基礎研究が支える TOEFL® 授業

上級レベルで到達目標とする言語技術は、学術英語を母語に置換せず瞬時にかつ正確に読解できる構文処理技術、論文・報告書等を英語の段落構成・文体パターンに従って自然に作文できる生成技術、講義・講演・会議などで即座に正確に理解できる音声処理技術、及び、流暢に発言し意思疎通を図る発信技術である。私の研究は、日本人英語学習者が陥るつまずきの要因を究明し、克服を促すための方法論を考究することにある。つまずきの原因には、言語学的・心理学的・教育学的・医学的な側面が潜んでいる。英語を教授し提供するのが適確な対応を施さなければ、学習者の英語は化石化して向上は望めない。私は、言語処理の認知論的考察に基づく立場から、語彙・文法・意味・音声・文字処理のメカニズムと獲得過程を解明している。基礎研究で得られた知見に基づいて、学習者の抱える諸問題を理論的・実証的に追究し解決している。英語は、海外で通用するものでなければならぬ。授業では、国際的な学術誌にも掲載されている Lexical Approach を提供している。

受講生の中には、留学した学生が何人かいる。TOEFL®で合格点を修めることは、ゴールではなく出発である。これからがことばの運用のはじまりになる。人間が発する理性と感情に包まれたことばが矢継ぎ早に降りかかり、さぞ戸惑い不安に心を痛めていることだろう。自分で判断し、解決し、道を切り開いていかなければならない。さあ、リージェンツ・パークの野外劇へ繰り出そう。老人子供、恋人たちそして異邦人、夕闇の中、ともにシェイクスピアを体感しよう。スコットランドの Highland Bull に北野の梅と天神様を重ねよう。きつと彼らは、目的を達成するまでは、踏みとどまると私は信じている。

■TOEFL®が 記憶から消えたとき

TOEFL®の授業を忘れ、授業を受けたことも忘れたとき、普遍的な英語力が身につけている。英語をことばへと昇華させた彼らが、国際社会・専門領域で貢献していくことを願っている。



「Highland Bull」©Laurie Campbell

スポーツ実習 I

「ウォーキング」

Walking



① 2007年「京大ウォーキング」の授業風景 上段左:京都御所／上段右:鴨川の亀石／下段:京都各地を歩く!／右ページ:大文字の「大」の中央にて➡



岡本香代子 (おかもと かよこ)

高等教育研究開発推進機構非常勤講師

歩行開発研究所研究員・医学博士

専門:新生児から高齢者に至る歩行の筋電図の研究。

歩行の研究で日本バイオメカニクス学会奨励賞を受賞。

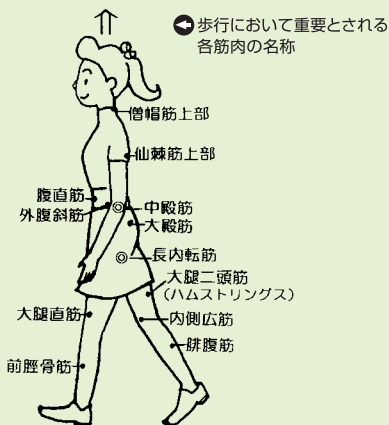
執筆活動と全国でウォーキング講演活動を行う一児の母。

主な著書:

『筋電図からみた歩行の発達～歩行分析・評価への応用～』

『Development of Gait by Electromyography』

(歩行開発研究所2007)



ヒトの歩行動作は生涯にわたり変化していきます。新生児原始(反射)歩行から始まり、生後1〜2ヵ月頃の乳児原始歩行、生後6〜12ヵ月頃の乳児随意支持歩行へと発達の進化します。その後、1歳前後に独立歩行を習得し、3歳頃に合理的な筋活動を示す成人型歩行(体直立姿勢で踵着地の歩行)を獲得し始めます。しかし、運動不足や加齢等による筋力・バランス機能の低下が要因で、不安定で過剰な筋活動を示す老人型歩行(中腰・体前傾姿勢で小股すり足的な歩行へ移行します。筋負担の大きい老人型歩行へ移行すると歩くことが苦痛になり、ますます歩行量が減少します。生涯、今のように歩き続けるためには、できるだけ早い時期から、正しい歩行姿勢を意識することが重要です。

詳しく述べますと、体前傾姿勢の「猫背歩行」は、特に背筋上部の衰えが起因しています。極端な猫背歩行は、下腿(下腿・大腿・臀部)後面の抗重力筋に過度な緊張が生じますので、今から意識して背すじを伸ばすことが大切です。次に、膝が軽く曲がった「膝曲がり歩行」は、大腿前面の膝伸展筋(内・外側広筋等)の大腿四頭筋の筋力が低下し始めています。膝曲がり(極端になると、足が地面についている立脚期に、大もも前面の筋肉に大きな負担がかかります。膝伸展筋(大腿四頭筋)の衰えを防ぎ強化するには、階段・坂歩行やスクワット運動が効果的です。また、踵押し上げ時に働くふくらはぎの筋肉が衰えてくると、小股となり歩行速度が遅くなる「小股スロー歩行」になります。普段から少し大腿で速足歩行を心掛けたり、背伸び運動でふくらはぎの筋肉(腓腹筋等)を強化することで、小股スロー歩行を防ぐことができます。よくつまずく人は、下腿前面のすねの筋肉(前脛骨筋)が衰え、着地前につまずきがあがらず、乳幼児期と同様「すり足歩行」にな

ている場合がほとんどです。少し大腿歩行で踵着地を意識すると、つま先があがり、すり足歩行を防ぐことができます。また、バランス機能の低下により、足の横幅を広げて歩く「2直線歩行」になりますので、1直線上を歩くように心掛け、歩行バランスを維持することも大切です。

① 背すじを伸ばして、② 1直線上を歩くように踵着地、③ 少し大腿で歩くことを意識して行い、努力して続けることが、歩行に必要な筋力・バランス機能を維持し、合理的な筋活動を示す成人型の歩行法を保つ礎となります。

直立二足歩行はヒトの基本的な移動運動です。1歳前後の乳児が支持なしで独立歩行を獲得することは移動運動の中で最も画期的な出来事(milestone)です。私は1歳頃、歩行研究者である父の筋電図実験の被験者として、京都大学で最初の第一歩を踏み出したそうです。私も、歩き初めは非常に不安定でしたが、2年間の反復練習を経て、3歳頃に合理的な筋活動を示す今の歩行を獲得し始めました。京都大学で授業を担当して14年目の2007年度に、運動不足や生活習慣病の改善策として注目されている「ウォーキング」が新しく開講されました。歩行を健康づくりの運動にするには、① 歩行距離を延ばす、② 歩行速度を上げる、③ 歩行姿勢を変化させる等があげられます。授業では健康を維持するウォーキング法だけでなく、歩行に必要な筋力とバランス機能を保ち続け、3歳頃に獲得した成人型歩行を生涯にわたり維持する重要性を伝えていきたいと思っています。

京都大学周辺は、世界遺産を含む日本の名所コース(下鴨神社・京都御所・哲学の道・大文字・平安神宮など)に恵まれています。歩行研究をもとに、すてきな「京大ウォーキング授業」を目指し、学生の皆さんと共に背すじを伸ばし、少し大腿で歩き続けることを願っています。

2年生進級時アンケートの結果について

高等教育研究開発推進センター教授

吉田 純



吉田 純(よしだ じゅん)
高等教育研究開発推進センター教授
1959年大阪市生まれ
専門は「社会学、社会情報学」
趣味は「クラシック音楽」

1 アンケートの趣旨と概要

高等教育研究開発推進機構では毎年度初めに、「2年生進級時アンケート」を実施しています。その目的は、新2年生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とすることにあります。このたび、第3回(平成18年度)の「2年生進級時アンケート」の結果を報告書にまとめましたので、その概要をご紹介します。

アンケート用紙の配布は、平成18年4月、各部新2年生への1回生後期成績表交付時におこなわれました。4月21日の締切りまでに776人から回答があり、提出率は26.5%でした。以下、その結果の要点を、統計的結果、自由記述の内容の順にみていきます。

2 統計的結果について

まず注目すべきは、「全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか」という設問への回答です。「実現されなかった」(8%)、「どちらかといえば実現されなかった」(33%)があわせて全回答者の4割強存在するという事実は、われわれ教職員として、かなり重く受け止めなければなりません(図1)。

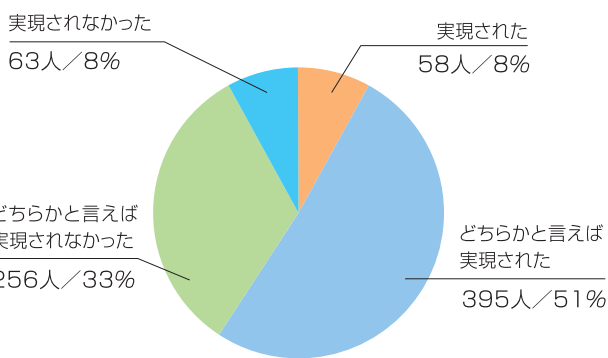


図1 全学共通教育への期待の実現

理由、および「とくに不満だった科目」が「不満だった」理由としても多く挙げられており、現在の学生諸君が全学共通教育に対して抱いている期待と不満の内容を反映していると解釈できます。また、とくに成績評価に関しては、「全体として、自分の成績評価に納得していますか」という設問に対しては、全回答者の85%が「納得している」または「どちらかといえば納得している」一方で、15%が「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と答えており、後者の理由としては「成績評価の基準・方法が明確に示されていないかった」が最も多くあがっています(全回答者の9%)。このように、成績評価に関する強い不満を抱く学生諸君が一定数存在するという事実も無視できません。

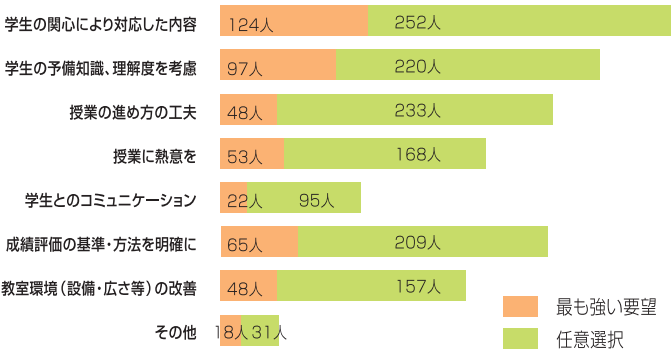
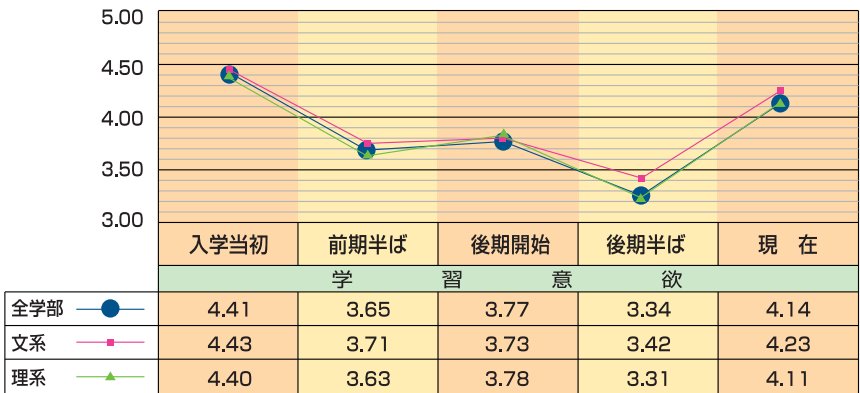


図2 全学共通教育の改善への要望

図3 学習意欲の変化



(「非常に意欲あり」5点～「まったく意欲なし」1点として集計)

以上のように、1回生時の全学共通教育に対して失望や不満を抱いた学生が少なからず存在する一方で、2年生進級時点での学習意欲が1年前の入学時とほぼ同じレベルにまで再び高まっているという結果はつの「救い」でもあります(図3)。学生諸君のこの学習意欲の高まりに添えていくためにも、本調査の結果を、今後の全学共通教育の改善に生かしていく道を探っていきたいと思います。

3 自由記述の反応について

アンケート用紙最後の自由記述には、全回答者776名の過半数480名の回答があり、かなり長文に及ぶものも多数ありました。これらは、学生諸君の全学共通教育に対する率直な批判や期待を含んだ「生の声」として、統計的結果とは別の意味で、貴重な資料となるものです。

まず注目されるのは、次のように、きわめて対照的な意見が存在していることです。すなわち、「京都大学の全学共通科目は期待していた以上に素晴らしいものでした。……今後「専門」という、ある意味狭いところに入っていくわけですが、その前に「学術的に広い世界」に触れたことは、これからの人生に非常に役立つだろうと思います」といった非常に肯定的な記述がある一方で、他方では、「語学と一部の実用的・基礎知識的な科目以外は、本当に無駄にしか思っています。その割に必要な単位数は少なくはなく、苦労させられます。だから、学生はとにかく単位数を稼ぐために興味もない楽勝科目ばかり選んでやる気のないまま授業に出て退屈しなければなりません」といった、全学共通教育の意義そのものに対して懐疑的な記述もみられます。

こうしたきわめて対照的な意見の併存は、単に個々の学生の意識や価値観の差異を反映しているだけではなく、京都大学の教育が現在まさに直面しているジレンマをも反映しているように感じられました。そのジレンマとは、端的にいえば、京都大学の「自由の学風」の伝統に代表される学問の自律性と、現在の高等教育改革の基本的な方向性をなしている、広い意味での成果主義の考え方とのあいだに生じてくるものです。このジレンマは、次のような対照的な記述の中にもあらわれています。すなわち、「京大の自由な雰囲気、というのが失われつつあるのではないかと思います。……所々に『学問とは自分で勝手にするもの』という京大の学生が昔から持っていたであろう心情に反するようなシステムが見受けられ、少し残念に思いました」と学問の

このようなジレンマの中で、今後の京都大学の教育はどのような方向に改善の道筋を見出すべきか——この問いに対しては、たに「義的な解答を出すことは不可能です。ただ、次のような意見の存在は、この問いについて考えていくうえで重要な示唆を与えるように思われます。『大学の授業はTVの番組ではないので、どんな授業であれ、受ける側の捉え方にあると思います。『学生の声』を反映させる試みは頼もしいですが、大学の講義が『消費される商品』になってしまうのは残念です。』『自分の目標がはっきりしているためにかえて、その専門科目(建築とのつながりがはっきりしない科目に対する意識が希薄になっていた。しかし、それは大きな間違いで本来自分にとって建築は、人間、世界を知るための手段であって目的ではない。すべてが建築のためにあるように考えたのが大きな間違いだったことに、この二年間の犠牲をもつてはじめて強く認識したように思う。』」

大学教育が学生(という「顧客」)の側にあらかじめ存在する「ニーズ」にのみ応えるための「商品」ではなく、場合によっては「目的」そのものを相対化し、新たな自己発見や世界観の変革をもたらす可能性のある反省的な営為であるということ、この可能性をより拡大していく方向にこそ、今後の京都大学の教育の真の「成果」は求められていかなければならないのではないのでしょうか。

最後に、新学期の大変忙しい中アンケートに熱意ある回答を寄せてくれた学生諸君に、心よりお礼を申し上げます。

研究施設紹介 人文科学研究所

人文科学研究所 所長
金 文京

歴史―日本・東洋・西洋から世界へ

人文科学研究所は、一九四九年（昭和二四）に、「世界文化に関する人文科学の総合研究」を目的として、東方文化研究所、西洋文化研究所および旧人文科学研究所の三つの研究所が統合して設立されました。まずこの三つの研究所について、簡単に紹介いたします。

東方文化研究所は、一九二九年（昭和四）に、中国文化を中心とする学術研究機関として、外務省の助成金（そのもととは中国の義和団事件の賠償金）を受け、東京と京都に設立された東方文化学院の京都研究所が、一九三八年に名称を改めたものです。したがって当時は、京大ではなく外務省の所管でした。翌一九三〇

年には、今も人文研の分館（漢字情報研究センター）として使用されている北白川東小倉町のスパニッシュ・ロマネスク風の所屋が完成しました。この建物は、おそらく京大にある建築の中で、もっとも美しいものでしょうが、キャンパスから離れているせいもあって、あまり知られていないようです。中には教会か修道院だと誤解している人もいます。東方文化研究所では、中国の雲岡石窟の調査研究をはじめ、現在でも世界的に有名な数々の研究成果が生み出されました。人文研ではこの東方文化学院が設立された年を所全体の設立年とみなしていますが、今年で七十八周年を迎えることになります。

次に西洋文化研究所は、一九三四年（昭和九）に、今の東一条の本館の場所に設立された。独逸文化研究所の後身です。独逸文化研究所は民間団体でしたが、実際には当時の日本とドイツの緊密な関係を反映して、その設立には政府の意向が強く働いていました。そのため一九四五年の敗戦後はアメリカ軍に接収され、翌年、名前を西洋文化研究所と改めました。

最後に旧人文科学研究所は、一九三九年（昭和一四）に、「東亜に関する人文科学の総合研究」を目指して、京都帝国大学（当時）に附置されました。一九四九年にこの旧人文科学研究所が中核となつて、外務省の東方文化研究所



人文科学研究所北白川分館。1930年に建てられたスパニッシュ・ロマネスク様式の教会風建築。

現状と将来―新しい研究分野の開拓と教育・社会還元を目指して

以上のような伝統を継承して、人文研では現在でも、日本、中国、西アジア、インド、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなど世界のほとんどの地域についての歴史、哲学、宗教、文学、言語、科学などさまざまな分野の専門家による、それぞれの専門分野をふまえたうえでの意欲的な共同研究がおこなわれています。これほど多様な地域・多彩な専門分野の研究者が一同に会して研究活動をおこなっているところは、日本はむろん、世界的にみても稀でしょう。学問のあらゆる領域における専門化、細分化が進んだ現在、これを克服するための学際的研究の必要性が叫ばれていますが、人文研は学際共同研究の長い歴史と多くの蓄積をもっており、今そこから新たな挑戦をはじめようとしています。

たとえば今年から第二次世界大戦に関する共同研究が始まりましたが、これは現在のいわゆるグローバルゼーションの出发点ともいえるべきこの世界規模の戦争を、地域、専門を超えた総合的な見地から考えてみようという試みです。また今年新設された現代中国研究センターでは、経済発展と大きな社会変革のまつた中にある中国の現状を、人文研の研究蓄積を活かし、古代から現代に至る長い歴史的視点から考察する研究が行われています。

人文研ではこのような高度な研究成果を教育の場を通じてより多くの学生に伝えるため、毎年多くの研究生を受け入れ、文学研究科の協力講座を担当する他、特に全学共通科目に力を入れ、ポケットゼミやリレー講義を毎年提供しています。今年は、「人種の表象とリアリティ」、「中国考古学研究」の二つのユニークなリレー講

義が行われています。

また昨年発足した「人文研アカデミー」は、共同研究にもとづく連続セミナーや夏期公開講座、レクチャーコンサート、さらに京都アスニー（京都市生涯学習総合センター）、NHK文化センターとの共催による文化講座など多彩なプログラムを、年間を通じて企画し、研究成果をより広く社会全体に発信するよう努めています。今年も「人文学」とはじめて「古文字を学ぶ」（高校生向けジュニアアカデミー）を既に開催したほか、「東西文化交流の主役―ソグド人の美術と言語―」（連続セミナー）、「第二次大戦の前と後」（レクチャーコンサート）などが、これから開かれる予定です。詳しくは人文研のホームページを、ご覧ください。

人文研は、本年度中に現在の東一条本館から吉田キャンパス内の旧工学部5号館に移転する予定です。移転後はキャンパス内の一員として、他の学部、研究科、研究所、センターとの協力関係を一層深めながら、独自の研究と教育をさらに進めていくことになるでしょう。世界のさまざまな文化に触れ、それらを研究してみたいと思っている学生諸君、是非、人文科学研究所の扉をたたいてみてください。



金 文京（きん ぶんきょう）
人文科学研究所長・教授 1952年東京都出身
専門：中国文学



最近の共同研究の成果

KULASIS(学部版)が工学部でスタートします。

KULASISは、全学共通科目を履修するみなさんにとって必要不可欠なシステムです。京都大学では、KULASISを全学共通科目のみに留まらず学部(大学院)科目に展開しようとするプロジェクトが平成17年12月に正式に了承され、その第一弾として「工学部」を対象にKULASIS(全学部版)の開発に着手しました。

今回は第一段階として、工学部科目の休講情報・授業変更・レポート情報などがパソコンや携帯電話で確認できるようになります。今後は、履修登録や採点確認などの機能を拡大するとともに、工学部以外のそれぞれの学部・大学院にあったKULASISを開発していく予定です。

KULASISを全学的に展開することにより、より多くの学生の皆さんに便利で快適な教務情報システムの提供を目指しています。

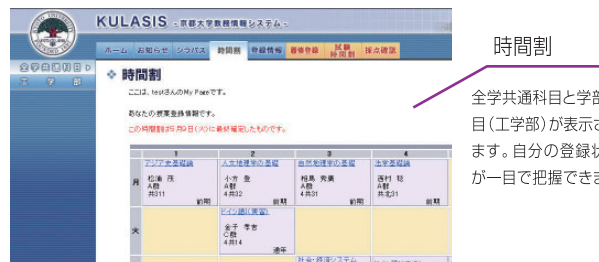


工学部のインデックスが追加されます。



お知らせ情報

呼出、休講、授業変更などの情報が確認できます。



時間割

全学共通科目と学部科目(工学部)が表示されます。自分の登録状況が一目で把握できます。



OPEN! サークル掲示板

1回生の皆さん、もしくは1年生「だった」皆さん。

まだ大学に入学して間もない4、5月の様な新歓イベントの中で、楽しそうなイベントを探すために、文字通り「山のように積もっている」ビラを掻き分けた経験がないでしょうか？

あるいは、楽しそうなイベントを見つけ、必ず行こうと思っていたのに、そのイベントがいっやっているのがわからず、いつの間にか終わっていたことは？

一方で、サークルに所属している方なら、どうやったら「上手く」新入生にイベント告知ができるか悩んだことがあると思います。

これらの例は、実際に僕が新入生だった時に体験したことやサークルに所属して考えたことで、どれもこれもなかなか頭を悩ませる問題でした。

そういった問題を解決できるイベント告知の場として、今年度から高等教育研究開発推進機構のHPに、新しく「サークル掲示板」というものを開設しました。

ここで「サークル掲示板」について、簡単に説明しますと、年間を通して定期演奏会やコンサート、演劇などの様々なサークルでのイベント告知に使える掲示板です。

実際に、今年度の4、5月の新歓時期には色々なサークルによって、連日のように多くの新歓イベントが書き込まれ、大変な賑わいを見せました。

この掲示板の特徴としては、サークルのイベント告知が見る人にわかりやすく、探しやすいような機能が多く備わっていることが挙げられます。

例えば、掲示板への書き込みは、



更新順ではなく「イベント開催日」順に並んでいるため、近くに開催されるイベントが目わかり、またイベントの絞り込み方法やサークル名、またはイベント日で絞り込む方法があり、行きたいイベントをすぐに探せるようになっています。

もし興味があるサークルについて知りたい時は、サークルのHPが各書き込みやサークル一覧のページに張られているので、どのようなサークルなのかをサークルのHPに直接行くことで知ることができます。

さて、このように多くの便利な機能がある掲示板ですが、サークル告知に役立つには、まだ二つのものが足りません。

それは、掲示板を「見る人」と掲示板に「書く人」です。

この二つのいずれかでもなければ、それは当然ながら掲示板として成り立ちません。

まず見る人については、元々「サークル掲示板」の開設されている場所がKULASISの前のページということで、ある程度の人は見に来てくれます。

しかし、それだけではサークルのイベントをより効率よく告知する場所としては心もとなく、何より、新歓イベントも告知するならば、入ってきたばかりでKULASISを良く知らない新入生の人がこの掲示板を見ていただかないと意味がありませんでした。

そういつたことから、この掲示板を運用してい



から御礼申し上げます。また掲示板にイベントを書き込んでいただいたサークルの皆さん、掲示板を見るという形で利用してくださった皆さん、この「サークル掲示板」が成り立っているのはそういった方々のお陰だと思っています、本当にありがとうございます。

吉田南教室使用サークル連盟議長



る、吉田南教室使用サークル連盟というサークル活動をしている学生たちの組織によって、新入生が全員集まることになっている全学共通科目のガイダンスにて「サークル掲示板」の説明と告知をしました。

ここで出てきた吉田南教室使用サークル連盟とは、50ほどの吉田南キャンパスの教室を利用して活動しているサークルの連合組織です。様々なサークルが一体となって大学側と定期的に話し合い、教室の貸し出しをはじめとする課外活動の環境を、大学側との信頼関係に基づいて充実させていくことを目的としています。

この「サークル掲示板」もそんな定期的な話し合いの中で、サークルのイベント告知の場が必要という話になり、高等教育研究開発推進機構の多大なる協力のもとに開設される運びとなりました。

残るは書く人ですが、これについては色々なサークルに「サークル掲示板」の説明を書いたプリントを配布し告知した後、利用申請を受け付けました。

その結果、なんと初年度にも関わらず80近くのサークルに登録していただき、この掲示板を利用していただきました。

このような努力の結果か、今年度の新歓時期は、前述した通り大変多くのイベント告知の書き込みがなされ、実際に「サークル掲示板」を見て

サークルのイベントにきてくれた新入生も見ることができました。これからはNFでのイベント告知などがあります、もし気が向いたときにでも、楽しそうなイベントを探すのであれば、この「サ



サークル掲示板 URL: <http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/displays.cgi?> (高等教育研究開発推進機構 HP)

研究者の宇宙

高等教育研究開発推進機構 副機構長 北村雅夫

昨今の学生を見ると、先輩や後輩よりも同世代の人の動向に関心を持つ学生が増加してきているように感じます。この最近の若い人の特徴は「偏差値」の影響かもしれないと考えています。中学や高校では「偏差値」という概念がよく使われます。この「偏差値」の是非についてはここでは触れませんが、この偏差値は受験のための基礎資料として同世代の学生の集団について求まられています。したがって、このような自分の集団に興味を持つということの影響が学生の動向として現れてきているのかと考えています。

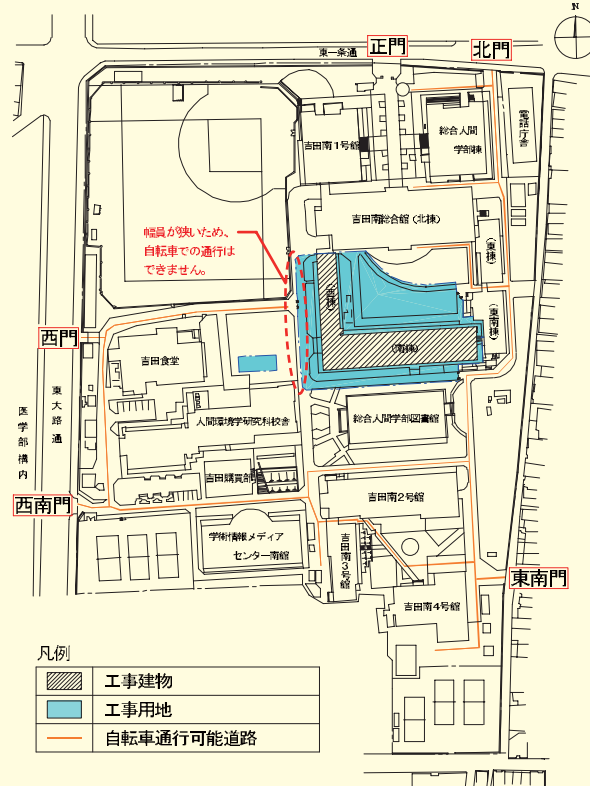
私は大学以外に勤めたことがありませんので、研究者の交友という点から考えてみます。このコラムのタイトルにある「宇宙」という言葉の意味は、宇宙に興味を持っている人ならすでに「宇宙」という言葉が、BC2世紀頃の「淮南子」という書物の中で定義されています。

「宇」は四方上下、すなわち3次元空間を意味し、「宙」は「往古来今」、すなわち過去から未来にわたる時間を意味しています。空間を研究している人々はある意味で「宇宙」の中にいるわけです。まず、「宇」に対応するように、空間を志す人は日本だけでなく世界にも多くいます。また、「宙」に対応するように、現在まで多くの先人達が現代科学を構築してきました。これら先人達の成果を学びさらに真理の追求をしていくわけです。また、未来では、世界中で諸君の後輩も科学の探求をめざします。このように空間を志す人たちは決してある世代の小さな集団だけに属しているわけではなく空間の「宇宙」という広い次元空間に存在していますので、大学の学生や教員にいわゆる「偏差値」という概念が使われることがありません。

空間を目指すとは必然的に交友する人々の範囲が大きく広がります。ここで最も重要なことはこの「宇宙」の中で孤立しないことです。尤も、私自身の場合には孤立するどころか、いわゆる悪友と遊びふけていたこともありますので言える立場にはないのかもしれませんが、大学の勉学やサークル活動を通して直接には、あるいは本や論文を読むことで間接的に、広い時間空間にいる色々な人々と知り合うことが重要であると思っています。

吉田南総合館 耐震改修工事のお知らせ

8月から吉田南総合館の耐震改修工事が始まりました。平成20年3月までの工事期間中、騒音や交通規制などでご不便をおかけしますが、安全な教育環境の実現のためご協力をお願いします。



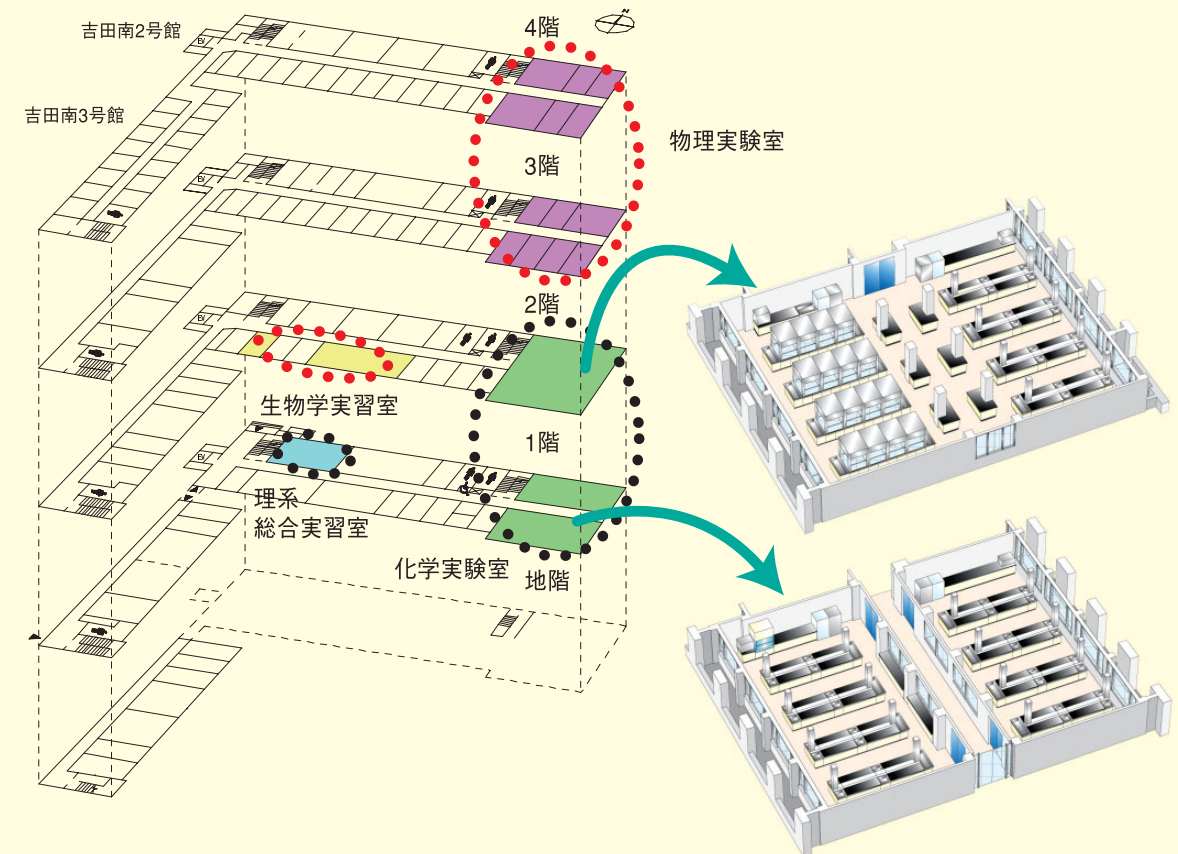
水色の部分は立入禁止です。西棟の西側は道幅も狭くなり危険ですので、自転車は通行できません。



完成後イメージ（南棟北面）

吉田南総合館の実験室が2号館に移転しました

これまで吉田南構内では、建物の耐震改修や老朽化改善のための工事にあわせて、機能・用途ごとに空間を効率的に配置する「ゾーニング」を進めてきました。これまで吉田南総合館にあった全学共通教育のための実験室がこの10月より吉田南2号館に移り、いよいよ稼働します。これにより、今まで総合館の地階から4階まで分散していた物理学実験室はわかりやすい配置となり、化学実験では新しい設備の導入などにより実験の幅も広がります。



●「ゾーニング」について

現在の吉田南構内は全学共通教育のための講義室、人間・環境学研究科等の研究のための諸室、そして実験室などが混在しています。これらの諸室は、それぞれ利用者が異なるのはもちろん、要求される設備なども違ってきます。これら、機能・用途が異なる空間を、その機能・用途ごとに効率的に配置することを「ゾーニング」と呼んでいます。ゾーニングの明確化により利用者にとって分かりやすく、使いやすい空間となるとともに、維持管理や設備の更新等も容易になるなど、将来にわたる効果が期待できます。

●化学実験室の充実

今まで吉田南総合館にあった化学実験室は昭和47年に整備されたもので、その後の実験の高度化や安全衛生関係の基準に充分対応できていませんでした。今回、設備を一新し、機能の向上を図ることで、高度実験教育の実施が可能になりました。

表紙を飾るスナップ写真大募集!!

『共通教育通信』では、みなさんのキャンパス生活シーンの写真を用いて毎号の表紙をデザインしています。日常の何気ない風景、「面白い!」と感じたもの、友達とのスナップなど題材は問いません。みなさんがデジタルカメラや携帯電話で撮影した写真を下記のアドレスまでお送りください。

■写真には学部、回生、氏名、コメントを添えてください。

■著作権や肖像権の問題などにより掲載できない場合があります。著作権の確認、人物を撮影する場合は掲載の承諾を得てからお送りください。

送り先:

京都大学共通教育推進課

e-mail : 730tusin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

「共通教育通信」についてのご意見・ご感想も、こちらのアドレスにお送りください。



今号の表紙写真紹介

1. } 吉田南構内の“秋色”スナップ
2. }
3. 吉田南構内プロムナードでのスナップ
4. スポーツ実習 I (ウォーキング) の授業の様子 鴨川の“亀石”を渡る (本文P.9)
5. 平成18年の11月祭でのスナップ
6. 共通教育推進課OBのMさん宅近くで撮影した栗

「学生による授業紹介」原稿募集!!

みなさんが受講されている授業を紹介してください。授業での貴重な経験・驚いたこと、ユニークな先生の紹介など500字程度(科目名、担当教員名も含めて)でお願いします。

■学部、回生、氏名を本文とは別に明記してください。ただし、掲載時には学部、回生のみを掲載し、氏名は掲載しません。

■掲載に際して、編集部にて表現の一部を削除・訂正する場合があります。

送り先:

京都大学共通教育推進課

e-mail : 730tusin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp